

株主の皆様へ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたびの型式指定申請における不適切事案につきまして、株主の皆さまに多大なご心配・ご迷惑をお掛けしたことを深くお詫び申し上げます。対象車種については、国土交通省より基準に適合していることを確認いただいております。皆様からの信頼回復と再発防止に向けて、コンプライアンス及びガバナンスの強化をさらに図ってまいります。

第90期中間連結会計期間の事業内容につきましては、売上収益・各利益は過去最高を達成しました。売上収益は、二輪車事業のブラジル、インドにおいて販売台数の増加及び台当たり単価が向上したことにより、増収となりました。営業利益は、二輪車事業の増収効果とコストダウンに加え、円安によるプラスの効果もあり増益となりました。

当期の配当については、2024年12月期通期連結業績予想を当初予想より変更していないことを踏まえ、年間配当予想1株当たり50円を維持し、中間配当は1株当たり25円と決議いたしました。

株主の皆様には、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年9月 代表取締役社長 日高祥博



売上収益



営業利益



親会社の所有者に帰属する利益



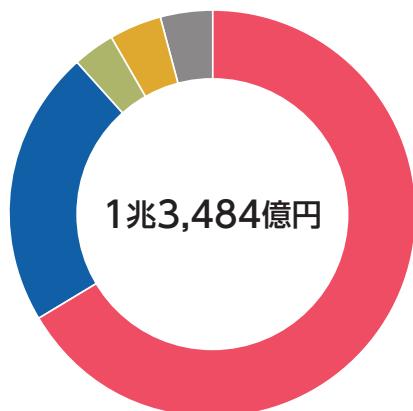
2024年12月期通期連結業績予想

	売上収益	営業利益	親会社の所有者に帰属する当期利益	換算レート (ドル・ユーロ)	年間配当金
期首予想 (2024年2月)	2兆6,000億円	2,600億円	1,750億円	140円・150円	50円
(参考) 前年実績	2兆4,148億円	2,439億円	1,584億円	141円・152円	48.33円*

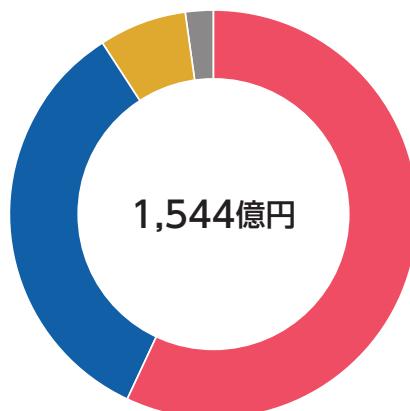
*2024年1月1日付で普通株式1株を3株に株式分割しました。株式分割を考慮し算出しています。
※当社グループは、2024年12月期からIFRSを適用しています。前年度の数値についてもIFRSに準拠して表示しています。

セグメント別の業績（中間連結会計期間）

売上収益



営業利益



- ランドモビリティ
- マリン
- ロボティクス
- 金融サービス
- その他

※営業利益の円グラフ中央に表示されている合計値は、ロボティクス事業の営業損失40億円を含んでいます。

ランドモビリティ事業 売上収益8,961億円（前年同期比986億円・12.4%増加）営業利益907億円（同228億円・33.6%増加）

二輪車事業では、欧米の販売増加に加え、ブラジル、インド、インドネシアを中心に需要が増加したことにより当社の販売台数は伸長しました。売上収益は、ブラジル、インドにおける販売台数の増加及び台当たり単価の向上により、増収となりました。営業利益は、増収効果に加えて新興国でのプレミアムモデルの供給改善やコストダウン、円安によるプラス影響により、増益となりました。

RV事業（四輪バギー、レクリエーション・オフハイウェイ・ビークル）では、需要が前年を下回り当社の販売台数は前年並みだったものの、モデルミックスの悪化により、減収となりました。また、競争環境の激化に伴う販促費や製造経費の増加により、減益となりました。

SPV事業（電動アシスト自転車、e-Kit、電動車いす）では、国内向け電動アシスト自転車の販売台数が前年を上回りました。一方e-Kitは、メイン市場である欧州での在庫調整局面継続により、販売台数が減少し減収となりました。営業利益は、販売減少ならびに販促費の増加により、減益となりました。

スポーツヘリテージモデル「XSR900 GP」発売

1980年代のGPファクトリーマシン「YZR500」を彷彿させるスタイリングにまとめたモデルです。“The Embodiment of Yamaha Racing History（ヤマハレースヒストリーの体現者）”をコンセプトに、ロードレース世界最高峰での足跡とスピリッツを表現しています。



セグメント別の業績（中間連結会計期間）

マリン事業 売上収益2,977億円（前年同期比13億円・0.4%減少） 営業利益532億円（同126億円・19.2%減少）

中南米では、中小型船外機の堅調な需要が継続した一方、欧米では物価及び金利上昇の影響により需要が減少しました。なお、北米の大型船外機の需要は、安定的に推移しました。当社販売のうち、新モデルは好調だったものの、船外機全体では減少となりました。ウォータービークルでは、金利上昇を懸念した買い控えにより需要が減少した一方、当社の販売台数は、昨年の部品不足やサプライチェーン混乱による供給制約が改善されたことにより増加しました。なお、当中間連結会計期間の業績には、電動推進機メーカー「Torqeedo GmbH」の業績を含んでいます。

船外機「F350B」を北米市場で新発売

350馬力の船外機「F350B」は、V型6気筒、排気量4,256cm³の新開発エンジンを採用しています。先進機能を搭載し、卓越したパワー、低速域から大きなトルクを発揮するとともに、旧モデルから約20%の軽量化を実現しました。



ロボティクス事業 売上収益459億円（前年同期比4億円・0.8%減少） 営業損失40億円（前年同期：営業利益5億円）

サーフェスマウンターは、欧州における設備投資の需要が減少した結果、当社の販売も減少しました。産業用ロボットは、中国での需要が引き続き停滞し、当社の販売も減少しました。また、半導体製造後工程装置は生成AIや先端パッケージ向けの需要が増加し、販売が増加しました。これらの結果、ロボティクス事業全体では減収・減益となりました。

次世代小型高速モジュラー「YRM10」新発売

小型・高速・省スペースに部品対応力と汎用性、そして優れたコストパフォーマンスを兼ね備えたモデルです。1ビーム1ヘッドクラス世界最速52,000CPH^{*1}の搭載能力を実現した表面実装機^{*2}です。

*1 CPH (Chip Per Hour)：単位時間当たりで実行可能な搭載部品の総数

*2 表面実装機：エレクトロニクス製品に組み込まれる電子回路基板に、各種の電子部品を搭載する生産設備



金融サービス事業 売上収益559億円（前年同期比174億円・45.3%増加） 営業利益108億円（同42億円・63.2%増加）

売上収益は、販売金融債権が増加する中、調達金利の顧客転嫁を進めたことにより、増収となりました。営業利益は、金利収入の増加に加えて、前期に発生した金利スワップ評価損が当期は評価益に転じたことで増益となりました。

その他事業 売上収益529億円（前年同期比77億円・17.1%増加） 営業利益36億円（前年同期：営業利益6億円）

ゴルフカーの北米での需要増加を背景に販売台数が増加し、増収・増益となりました。

SDGs映像シリーズ「FIELD-BORN」

社会課題の解決に向けたさまざまな取り組みを紹介するSDGs映像シリーズ「FIELD-BORN」。その第8弾として「ストリートの黄色いヤマハ」編を2024年5月に公開しましたのでぜひご覧ください。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/stories/field-born/>



統合報告書2024を発行

2024年7月に統合報告書を発行しました。当社ウェブサイトよりぜひご覧ください。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/ir/integrated-report/integrated2024/>



株主アンケート結果のご報告

2024年3月に実施しましたアンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。10,929名の方にご回答いただきました。アンケート結果の一部を当社ウェブサイトにてご報告いたします。

<https://global.yamaha-motor.com/jp/ir/shareholder/survey/>



株主優待制度の変更に関するご案内

当社は2024年1月1日付で株式分割を行いました。お知らせの通り、株式分割に伴い株主優待制度を変更いたしますので、変更後の基準について下記の通りご案内します。

- ① **2024年 中間期優待**
対象：6月末日の株主名簿に記録された**3,000株**以上の株式を保有の株主様
- ② **2024年 期末優待**
対象：12月末日の株主名簿に記録された100株以上の株式を保有の株主様

保有株式数	3年未満	3年以上
100株～299株	1,000ポイント	2,000ポイント
300株～999株	2,000ポイント	3,000ポイント
1,000株～2,999株	3,000ポイント	4,000ポイント
3,000株以上	4,000ポイント	5,000ポイント

※継続保有の条件は、同一の株主番号での保有となります。ご注意ください。

当社の株主優待制度及び優待品に関しては、当社ウェブサイトをご参照ください。
<https://global.yamaha-motor.com/jp/ir/individual/yutai/>

ヤマハ発動機株式会社

〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500番地
電話 0538-32-1145

<https://global.yamaha-motor.com/jp/>

